

平成24年 第6回教育委員会会議録

1 日 時

平成24年4月19日（木）

開会 16時00分

閉会 17時00分

2 場 所

教育委員会室

3 出席した委員

新村健了委員長、飯田一郎委員、中村健一委員、八重澤美知子委員、横山真紀委員、木下公司教育長

4 説明のため出席した職員

金田清教育参事、宮崎良則教育次長、池廣巖雄教育次長、新屋長二郎教育次長、平島敏彦教育次長兼学校指導課長、高松巧庶務課長、道端祐一郎教職員課長、坂井芳子生涯学習課長、中川智夫文化財課長、濱辺正実スポーツ健康課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第12号 平成24年度石川県教科用図書選定審議会委員の委嘱（任命）について
(原案可決)

6 報告案件

報告第1号 石川版教科書「ふるさと石川」の改訂について

報告第2号 平成24年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について

報告第3号 平成23年度全国高等学校選抜大会の成績について

報告第4号 教職員の人事異動について

7 審議の概要

・開会宣告

新村委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第12号及び報告第4号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

報告第1号「石川版教科書「ふるさと石川」の改訂について」

(平島教育次長兼学校指導課長説明)

資料の3ページをご覧ください。はじめに、この「ふるさと石川」につきましては、石川の将来を担う高校生が、本県の自然や歴史、伝統文化はもちろんのこと、石川の産業や未来の姿までを知ることを通して、本県の素晴らしさを理解し、郷土を愛する心や誇りに思う心を培うこと、さらには将来にわたって石川の歴史や伝統文化を維持・発展させ、また、発信者として幅広く活躍することを願い、作成したものでございます。平成18年3月に初版を発行し、県立中学校、県立高等学校全校が活用することで、ふるさと学習の推進を図ってきたところであります。

しかしながら、発行して6年が経過し、その間、経済や社会のグローバル化や科学技術が急速に進展したことに加え、平成26年度の北陸新幹線の金沢開業など、県内交通基盤の整備が進んだことや、能登半島地震の発生など、本県を取り巻く状況も大きく変化しております。また、学習指導要領においては、伝統や文化に関する教育の充実が新たに示されたほか、「石川教育振興基本計画」においても、郷土石川を愛し、誇りに思う気持ちを育む教育の充実を図ることとしており、ふるさと教育の充実がより一層求められているところです。

こうしたことから、昨年度、改訂作業を進め、本年3月の発行に至った次第でございます。完成した冊子については、委員の皆様方には既にお届けしておりますが、新たに加えた内容について「改訂の概要」としてまとめておりますので、簡単に説明させていただきます。

資料の4、5ページをご覧ください。構成については、「第1章 石川の自然」から「第5章 石川の未来」までの5つの章立としております。

3ページにお戻りください。今回の改訂において、新たに加えた、主な内容としましては、「第1章 石川の自然」において、4「動物」の節に、いしかわ動物園での「トキの分散飼育」、「ライチョウの飼育・繁殖技術の研究」についての取組を追加したほか、6「里山里海」の節に、「能登の里山里海が世界農業遺産に認定」されたことを記述しました。「第2章 石川の歴史」においては、9「七尾城から金沢城へ」の節に、「金沢城公園の整備」として、河北門の復元や玉泉院丸跡の調査研究・整備についての取組を追加しました。「第3章 石川の文化・伝統工芸」においては、4「科学・技術」の節に、本県ゆかりの技術者である「八田與一氏の業績」を追加したほか、9「年中行事」の節に、『奥能登のあえのこと』のユネスコ無形文化遺産への登録を追加いたしました。それから、「第4章 石川の産業」及び「第5章 石川の未来」においては、第4章では、1「農林業」の節に、「ルビーロマン」や「能登牛」など、特色ある「県産食材のブランド化」のほか、4「繊維・化学産業」の節に、独創的な工作機械の開発や炭素繊維、炭素繊維複合素材の生産など「次世代産業」や「ニッチトップ企業」の取組を追加しました。さらに、第5章では、1「未来のまちと交通」の節に、県民の悲願でもある「北陸新幹線金沢開業と敦賀への延伸」を追加したほか、能登半島地震を踏まえ「輪島市における防災対策」についても、触れております。

全体として、写真や図版を豊富に掲載し、生徒の興味・関心の喚起を図るほか、注釈として、他の章との関連を示す案内や、関係施設、参考図書を掲載し、生徒自らが調べ、理解を深められるよう工夫を凝らしたところでもあります。

続きまして、資料の6ページをご覧ください。「ふるさと石川」を授業等において活用する際の参考となるよう、作成しております教師用指導書も、今回併せて改訂し、CD-ROM形式で、先日、各学校に配付したところでもあります。資料は、その一部を抜粋したものでございますが、6、7ページにありますように、「補充資料」として、教科書の内容を補完する、詳細な説明やデータを、「発展資料」として、教科書の内容の範囲を越えてさらに学習を発展させる場合の資料を掲載しております。

また、8、9ページをご覧ください。「学習展開例」も示すことにより、生徒の興味・関心や地域特有の題材などを考慮したさまざまな学習課題を設定し、主体的な学習が進められるようにしております。今般発行いたしました改訂版につきましては、本年度入学した1年生より活用することとしており、県教育委員会といたしましては、本県の豊かな文化、歴史遺産のみならず、産業や未来についても学ぶことを通して、「ふるさと石川」の良さ、すばらしさを改めて認識し、石川のさらなる発展について考える気運を醸成したいと考えております。以上でございます。

【質疑】

(中村委員)

解説資料に、コノワタがからすみやウニと並ぶ、日本三大珍味であるとの記載があるが、ウニも日本三大珍味の一つなのか。

(平島教育次長兼学校指導課長)

記載事項については、様々な観点から検証を行ったが、コノワタ、からすみ、ウニが一般的な日本三大珍味とされている。

(八重澤委員)

大変素晴らしい教材が完成したと思うが、学校でどのように使われるのか。教材は作成後の展開がより重要であると考えている。また、この教材は一般向けに市販しているのか。

(平島教育次長兼学校指導課長)

主に高校1年生の総合的な学習の時間で使用する他、地歴・公民の授業の際にも活用している。また、修学旅行の事前学習においても、まず、自分の住む地域のことを知るといふ観点から、活用している。一般向けには、教科書販売店で販売を行っている。

(八重澤委員)

資料3頁のレジュメが、非常にわかりやすくまとめられている。主に教員を対象に、教材と共に配布したら良いのではないか。

(平昌教育次長兼学校指導課長)

より良い形で活用されるよう、検討を重ねたい。

(新村委員長)

素晴らしい教材であることは確かである。広く一般県民にも見て頂きたいと思う。

報告第2号「平成24年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における
入学者選抜結果について」

(平昌教育次長兼学校指導課長説明)

資料の10ページをご覧ください。はじめに、1の県立金沢錦丘中学校についてですが、受検倍率が、2.52倍となったなか、適性検査を平成24年1月29日に実施いたしました。選抜方法につきましては、(2)にお示したように、小学校長から提出された調査書並びに総合適性検査、作文及び面接の結果を総合的に判定し、入学者の選抜を行いました。選抜結果ですが、(3)の①に示しましたように、募集定員120人に対して、302人が受検し、うち、120人が合格しております。②の郡市別内訳については、金沢市が82人と最も多く、ついで白山市・野々市市が26人となっており、これまでと、ほぼ同様の結果となっております。

次に、資料の11ページをご覧ください。2の石川県立公立高等学校における入学者選抜結果についてご報告します。まず学力検査等は、資料(1)にお示した日程で実施いたしました。選抜結果であります。①の公立高等学校全日制については、募集定員8,400人に対し、推薦入学等871人、一般入学7,177人の合わせて8,048人が合格しました。②の定時制については、募集定員480人に対して、推薦入学、一般入学合わせて205人が合格し、③の通信制については、募集定員240人に対して、58人が合格しております。なお、定時制、通信制ともに、人数は1次募集までのものであります。また、各学校別合格者数の状況につきましては、資料の12頁から13頁に全日制を、14ページに定時制・通信制を掲載してございます。

最後に、資料の15ページの、(4) 全日制の合格者の得点状況をご覧ください。今年度の結果につきましては、①の教科別平均点にお示したように、それぞれの平均点は、いずれも前年度を上回り、5教科合計の平均点は、267点と前年度と比べ20点上がっております。これにつきましては、基礎基本の問題と、判断した根拠や理由を記述させたり、答えに至る考え方を説明させるなど、思考力や表現力などをみることが出来る、いわゆる活用力をみる問題をバランスよく配置したことに加え、各中学校の指導改善により、思考力や表現力の育成が図られ、学習が定着してきたことによるものと捉えております。このことにつきましては、中学校の校長から、検査問題については、「記述式の問題は、今求められている力を問うものである。」「3年間の学習内容が反映された問題である。」「単なる知識だけでは解けない問題が増えており、中学校の指導の在り方を考える機会となる。」などの声をいただいております。また、5教科の試験を2日間に分けて実施したことについては、「生徒の力を発揮するためによかった。」「保護者からもよかったとの声があった。」ということ聞いております。このあと、平成25年度の学力検査において

も、中学校における授業の中で身につけるべき学力の方向性を示すとともに、小学校や中学校で学んだ力を的確に把握できるような出題を目指し、石川県公立高等学校入学者選抜が円滑かつ適切に行われるよう努めて参りたいと考えております。以上でございます。

【質疑】

(新村委員長)

小論文等を廃止する一方、5教科の試験で記述式の問題を増やした上で、日程を2日間に分けた今年度の試験は、評判が良かったと感じている。また、記述量が増し、5教科は難化したはずであるが、昨年度から総じて平均点が上昇している点を評価したい。義務教育担当として、池廣教育次長はこの結果をどのようにとらえているか。

(池廣教育次長)

各学校における、学力向上に向けた取り組みの成果であろう。

(飯田委員)

合計点の得点分布において、450点以上の割合が0.0となっているが、全くいなかったのか。

(八重澤委員)

社会科の平均点が、昨年度と比較して大幅に上昇しているが、その要因は何か。

(平島教育次長兼学校指導課長)

450点以上を得た者は昨年度から減少はしたものの、今年度も若干名いる。昨年度と比較して、記述量が増し、より正確な知識が求められたことが、減少の要因の一つであると考えている。また、社会科については、新学習指導要領で、知識、技能を身につけ、それをいかに活用するかという観点が求められており、出題に際しても、知識を問う問題と、その知識を活用して記述させる問題のバランスに気を配ったところ、結果として平均点が上昇した。

(新村委員長)

総合学科の倍率が、全体的に下降傾向にあると感じている。様々な要因はあるだろうが、カリキュラム等に地元の意見を反映する等、てこ入れが必要なのではないか。

(金田教育参事)

例えば寺井高校では、校長が地域の中学校や市町教委に出向いて説明を行ったりしている。高校に入って何を学べるか、ということをもっと発信することが、まずは必要であると感じている。

(新村委員長)

確かに総合学科という名称からは、高校入学後のイメージを描きにくいのかもかもしれない。魅力を発信すべく、研究を重ねて欲しい。企業にとっても、商業科や工業科の卒業生といった方が、高校で学んだことのイメージがわきやすいのではないか。

(木下教育長)

とにかく中学生やその保護者に対して、高校で学べることを説明する必要がある。また、同時に採用して頂く企業にも、高校で学ばせたことについて、しっかりと説明しなければならない。

報告第3号「平成23年度全国高等学校選抜大会の成績について」

(濱辺スポーツ健康課長説明)

平成23年度全国高等学校選抜大会につきましては、東京都をはじめ、19の都道府県におきまして、平成23年12月23日から24年3月30日までの期間で各競技ごとに開催され、本県からは25競技に選手387名が参加いたしました。

成績は、団体では、ハンドボール女子の小松市立高校が3位、ボウリング男子の金沢市立工業高校が4位、バレーボール男子の県立工業高校、バドミントン女子の金沢向陽高校、ソフトボール女子の門前高校がベスト8に入賞する活躍がみられました。

個人では、ボウリング男子で金沢市立工業高校の松田選手が見事優勝したほか、9名の選手がベスト8までに入賞いたしました。

本年7月には、北信越ブロックにおいてインターハイが開催されることから、今回の全国大会の活躍をもとに、本県の高校生がさらに優秀な成績をあげられるよう、県高体連をはじめ関係団体との連携を一層深め、競技力の向上に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

【質疑無し】

(新村委員長)

以降の審議については非公開となるため、傍聴人の退席を求める。

議案第12号「平成24年度石川県教科用図書選定審議会委員の委嘱（任命）について」

(非公開)

平島教育次長兼学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

報告第4号「教職員の人事異動について」(非公開)

道端教職員課長が説明。

・閉会宣告

新村委員長が閉会を告げる。